

大阪平野は海 千里丘は海岸線

人類の祖先があらわれたのは、今から約 400 万年ほど前だといわれています。アフリカで生まれた人類は、長い進化の時間をへて原人の時代、約 50～60 万年前には現在の中国にも住みついていたと考えられています。

今から 1 万 2000～3000 年前には氷河時代が終わり、大陸の一部であったところが島となり、日本列島が形成されます。この時代から煮炊きや貯蔵に使う土器、シカやイノシシなど小型動物を狩りするため弓矢が使われるようになりました。表面に縄目をほどこす土器が多いため縄文土器と呼ばれ、このころの文化を縄文文化と呼びます。

氷河期が終わり、海面上昇

今から 100 万年ほど前から、地球は氷河期に入ります。氷河期には、海面が今より 100m 以上も低く、日本列島は大陸と陸続きでした。

縄文時代は、この氷河期が終わり、地球が温暖化に向かう時から始まりました。特に今から 6000 年ほど前を中心に、海面は急激に上昇しました。

これを縄文海進と呼びます。そのために、今の大阪平野に海水が入り込み、大きな湾（河内湾）となりました。

縄文海進によって広がった河内湾は、その後、河川が運んでくる泥や砂によって埋まっていき、淀川の河口には三角州が形成されていきます。

河内湾では漁業も盛ん

河内湾の周辺に住んでいた縄文人は、狩猟や採集だけでなく、漁業も盛んにやっていたようです。舟や釣り針、漁網に付けるおもりなどがたくさん発見されています。大阪市の森ノ宮遺跡の貝塚には、魚の骨やマガキ（後にはセタシジミ）の化石の大きな層が見られます。

市域は海、千里丘付近が海岸線

縄文時代の前期（約 7000～6000 年前）になると縄文海進といわれる急激な海面上昇が見られ河内平野の海水面は現在とほぼ同じになります。この時期、市域のほとんどが海の底で、千里丘付

近が海岸線だったようです。

しかし縄文時代の中期ごろ（約 5000～4000 年前）になると河内湾は河川が運んでくる泥や砂によって埋まっていきます。そして河口には三角州が著しく発達し、この時期には市域の大部分が陸地化していたようです。



部分が摂津市のおおよその位置

縄文時代中期ごろの河内湾

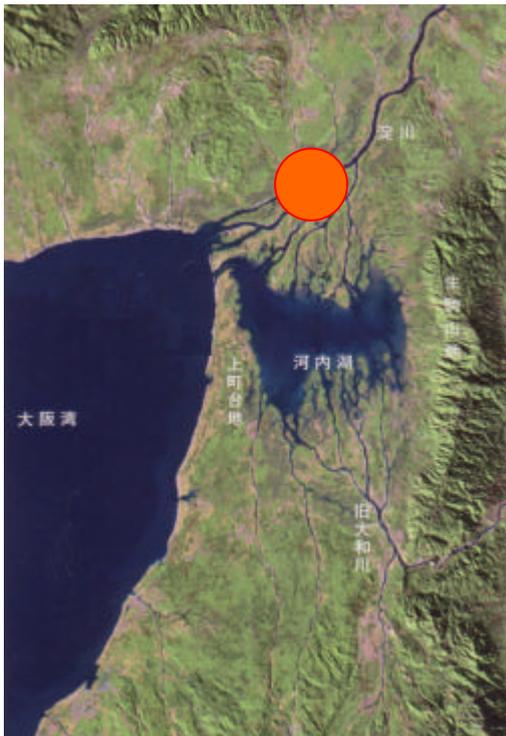
大阪府文化財調査研究センター・2002 年
『発掘速報展大阪・大河内展図録』より

湾から湖へ、沖積作用で陸地も拡大

やがて、河内湾の入り口に砂がたまって陸地が伸び（天満砂堆、吹田砂堆）、海の水が入りにくくなって、湾は潟となり、さらに湖へと変化していきます。淀川や大和川などが運ぶ土砂の沖積作用によって、湖の時代は湾の時代よりさらに陸地部分が拡大していきます。

河内平野の縄文時代においては、生駒西麓と呼ばれる東方に連なる生駒山脈のふもとに早期から晩期までの遺跡が点在します。

また後期には遺跡が増大します。この時期に縄文人の住居も周辺の山すそだけでなく、平野部の自然堤防（洪水で川の水があふれた時、川の両側に土砂が残されたためにできる微高地）など小高い場所にも広がってきます。この時期に相当な人口の増加があったようです。



弥生時代中期ごろの河内湖

大阪府文化財調査研究センター・2002年

『発掘速報展大阪・大河内展図録』より

想像をかきたてる淀川河床採集品

昭和49年、鳥飼西地区の淀川の河床をさらえる工

事の時、土砂に混じって大量の土器片が見つかりました。その中に若干の縄文土器片が採集されました。これら土器片は、上流部から流れてきたときにできる傷や磨滅（ローリング痕）のほとんど見られないものもあります。これは採集されるまであまり流されなかったため、近くでの土器の使用が想定されます。

当時は淀川そのものが流路をさまざまに変えながら、網の目のように広がって流れていました。大阪平野のほぼ中央に位置する山賀遺跡では河川に打ちこまれた杭による簡易な建物や河川に残された足跡などが残されています。漁労は縄文人の主要な活動だったことでしょうか。しかしこのような状況で人が住むことができたのでしょうか。沖積作用が進む時期には川筋の周辺は自然堤防やしっかりとした中州も形成されます。浅い海に小高く島のように顔をだしていたことでしょうか。このような土地で、縄文人は生活を営んでいたのかも知れません。また山麓を拠点とする集団による季節的・一時的な漁労活動の場であった可能性もあります。

期待される今後の調査

現在、市内の縄文時代を考える材料は淀川の採集資料だけと言えます。これまでの発掘調査では縄文時代の生活跡は見つかっていません。しかし安威川以北の千里丘陵の先端にあたる地域や、安威川以南の自然堤防上や中州上に集落があった可能性は十分にあります。今後、大規模な発掘調査が実施されましたら、摂津市域の縄文時代の状況がもっと明らかになるはずです。



淀川河床から採集された縄文土器

左は縄文時代晩期滋賀里 式の浅鉢型土器破片

右は縄文時代晩期滋賀里 式の深鉢型土器破片

『摂津市史・史料編一』より